資料５　　看護学科における臨床指導者研修会

平成 10 年度大分医科大学医学部看護学科看護学実習ワーキング作成

		平成７年度 ・大分医科大学医学部附属病院看護部 ・大分医科大学医学部看護学科(臨床実習担当)	平成８年度 ・大分医科大学医学部附属病院看護部 ・大分医科大学医学部看護学科(臨床実習関係)	平成９年度 ・大分医科大学医学部附属病院看護部 ・大分医科大学医学部看護学科(臨床実習関係)	平成 10 年度 ・大分医科大学医学部附属病院看護部 ・大分医科大学医学部看護学科(看護学実習ﾜｰｷﾝｸﾞ)
目的 目標		目的）　看護教育における実習の目的、指導方法、評価方法等について学ぶことにより、臨床実習指導者としての能力とリーダーシップを開発できることをねらいとする。 目標） 1)実習指導の意義と目標を理解する 2)実習指導者の役割を理解する 3)カリキュラムにおける実習の位置づけを理解し、各領域別実習のあり方について述べることができる（基礎、成人、母性、小児、精神） 4)実習評価の基本的プロセスを述べることができる 5)各病棟毎の実習指導案を作成できる 6)研修を通して、実習指導者としての能力とリーダーシップを開発できる	目的） 臨床実習指導者が、指導者としての基本的な態度を養うとともに、学生指導を行なうために必要な知識・技術を身につける機会とする。 目標） 1)臨床指導者に求められている基本的な態度とは何かについて考える機会とする。 2)看護基礎教育における臨床実習の意義（目的や重要性・必要性）を理解する。 3)臨床指導者の役割を明確にし、自分なりの指導者像が描ける。		
対象		26 名（婦長 5、副婦長 16、スタッフ 5）	21 名（副婦長 5、スタッフ 16）	23 名（副婦長 1、スタッフ 22）	24 名（副士長１、スタッフ 23）
方法	期間	平成 7 年 4 月 20 日～平成 8 年 2 月 15 日(17 回)	平成 8 年 8 月 31 日～12 月 14 日(６回)	平成 9 年 7 月 12 日～11 月 29 日(６回)	平成 10 年 7 月 4 日～11 月 21 日(５回)
	日時	第 1、3 木曜日 17:30～19:00	毎月１回土曜日 9:00～16:00(12 月は～12:00)	毎月１回土曜日 9:00～16:00(12 月は～12:00)	毎月１回土曜日 9:00～16:00
	場所	附属病院看護部多目的室	看護学科３階、基礎看護学実習室	看護学科 3 階、基礎看護学実習室(午前)、 地域･老人看護学実習室(午後)	看護学科 221 教室、地域・老人看護学実習室 附属病院看護部多目的室
	内容	別紙参照 No.1～5 ；「教育」「臨床実習教育」に関する内容 No.6～16;本学の実習に関する内容 No.17　；評価	別紙参照 No.1～3；「教育・看護教育」「評価」等に関する内容 No.4～6；指導案作成の演習	別紙参照 No.1　；「教育」に関する内容 No.2～6；午前中講義、午後指導案作成の演習	別紙参照 No.1　；「教育」に関する内容 No.2～5；午前中講義、午後実習時の問題場面の分析と解決策に関する演習
評価		・大分医科大学医学部附属病院看護部と看護学科の共催による第一回目の研修会であったが、その研修内容は、本学の看護学実習（基礎看護学実習Ⅰ）受け入れのための実習説明会の要素が大きかった。 ・研修会の時間帯が日勤終了後で、短時間であったため課題に十分に取り組めなかった。また、頻回に実施されたため集中しにくいという指摘も聞かれた。	・上記の目標に対する参加者の自己評価は高く、それぞれが研修会の意義を認めていた（自己の看護実践能力、教育観や指導者としての傾向をみつめる、他の病棟スタッフとの意見交換等の点で）。参加者の学生や実習指導に対する関心は非常に高く、講義や指導案作成を通して実習指導やその学習への意欲が強化されたと思われる。 ・開催の時期や日程に対しては、出勤扱いであったので無理なく参加できたとする者が多かった。また、実習期間とも重なり、研修会での学びを実際の実習指導に活かすことができたという声もきかれた。 ・研修内容に対しては、ディスカッションの場（例えば実習を受け入れるための条件等）を設けてほしいという要望がいくつかあった。	・研修の全体的な達成状況は、自己評価得点および記述された感想から、ほとんどの参加者が研修を契機に「患者へのケア提供者の役割」に加え、「看護実践の役割モデル」としての臨床指導者の役割を認識していた。特に多くの参加者が、「擬似教員の役割」と「看護実践の役割モデル」を区別して認識しはじめていた。 ・指導案作成の演習では、作成プロセスにおいて、グループメンバーの学生観、指導観、教材観、看護観の意見交換ができ、自己の考えを再認識することができたという意見が聞かれた。また、研修修了後に予定されていた基礎看護学実習Ⅱの指導案を作成したので、実際の指導の際に計画的、意識的に関わっていたと評価する教員があった。さらに病棟からは、指導案をもとに指導した結果を評価してみたいという積極的な声も聞かれた。 ・9 年度の演習方法は、毎回午後に設定されたが、大きな問題はみられなかった。開催の時期、日程、待遇に関する意見は、前年度と同様であった。	・参加者の自己評価によると、前年度までと同様に研修会の意義を認める内容であった。特に参加者が実習に対する関心を高め、今後の実習指導の機会に意図的に関わりたいとし、実習指導と看護実践の質的向上との両面において動機づけを得ていた。 ・今回の演習では、実習指導の自己体験を振り返る内容を取り入れたことによって、実習指導にあたる看護婦の役割を身近に考えることができた。さらに、実際の指導場面で学生に対応する事例の分析を通して、看護実践の役割モデルを段階的に考える機会となった。 ・研修会開催日時については、昨年までとほぼ同様の意見が多かったが、一部、次までの間隔を考慮した演習の課題設定と運営が必要という指摘もあった。